

テュートリアル課題 鼻血が止まらない

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032700

2016年度 Segment. 7

課 題 No.1

課題名：鼻血が止まらない

課題作成者：血液内科学
感染症科

志関雅幸



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

Aさん（33歳女性）は事務職員です。これまでは健康でこれといった病気にかかったことはありません。1週間くらい前から何かにぶつかった記憶がないのに、青いあざが四肢や体幹に出るようになりました。さらに昨夜から鼻血が出て、今朝になっても止まりません。

シート2

Aさんは会社を休んで、近くの総合病院の耳鼻咽喉科で診察を受けました。すると、内科に行くように指示されました。内科では検査を受けましたが検査結果をみた内科医は、すぐに大学病院を受診するように言いました。Aさんなぜすぐに大学病院？と思い何か悪い病気なのか不安になりました。

シート3

大学病院受診し、血液内科医の診察を受けました。担当医は、「汎血球減少という状態です。すぐに入院して調べましょう」といいました。Aさんはいったい何を調べるのかなと思いました。

シート4

入院後、担当医から告げられた病名は急性前骨髄球性白血病という思いもよらぬものでした。直ちに治療を始めなければいけないということでした。担当医は病名や治療法を紙に書きながら説明をしていきます。Aさんはショックを受けましたが、説明をしっかり聞いてわからないところは質問しようと思います。

シート5

治療により完全寛解となったAさんは、引き続き地固め療法という治療を受けることになりました。

治療開始から10日目の夜、Aさんは寒さと震えを感じ、39度の熱が出ました。何だか気分が悪く、意識はもうろうとしています。当直医が採血や処置をしています。

血液培養を採取した後、すぐに抗菌薬の点滴も始まりました。

3日後、血液から緑膿菌という細菌が検出されたようです。また、左の尿管に結石があり、軽度の水腎症を起こしていたこともわかりました。そういえば発熱を認めた際に左腰背部が痛みを自覚していました。

シート6

Aさんの血液培養より検出された緑膿菌は最初から投与していた第4世代セフェム系抗菌薬であるセフェピムに良好な感受性を示していました。

また、Aさんの左尿管結石は自然に排石され、水腎症も改善していました。
腎周囲膿瘍や化膿性脊椎炎などの菌血症の合併症を認めませんでした。

造血も回復（白血球数5500/ μ L（好中球 88%））し、計2週間のセフェピムの点滴治療を終了しました。

Aさんは、その後の化学療法は全て順調に進み、現在は社会復帰し元の職場で元気に働いています。定期的な外来通院を行い、経過をみながらですが、仕事にも復帰する予定です。